

大阪私学
教育情報化研究会



一般財団法人
草の根サイバーセキュリティ運動
全国連絡会
Grass roots Activity for cyber
SECURITY - JAPAN

高校生 ICT Conference 2017

in 帯広

高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×（家族・学校・地域）～

開催報告書

2017年10月15日（日）11:00-17:00

【会場】とちプラザ1Fギャラリー

主催

安心ネットづくり促進協議会

大阪私学教育情報化研究会

一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構

一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会

共催

内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、消費者庁、十勝毎日新聞社

2017年10月15日



2017

(高校生 ICT Conference は経済産業省等が主宰する「情報化月間2017」の登録行事です)

目 次

1. 開催概要.....	2
2. 高校生 ICT Conference 2017 地域開催.....	4
3. 高校生 ICT Conference 2017 in 帯広 開催概要.....	5
4. 主担当.....	8
5. 高校生 ICT Conference 2017 サミット.....	8
6. 高校生 ICT Conference 最終報告会.....	9
7. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応.....	9

1. 開催概要

名 称：	<p>高校生 ICT Conference 2017</p> <p>テーマ：高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×（家族・学校・地域）～</p>
主催：	<ul style="list-style-type: none"> ● 安心ネットづくり促進協議会 ● 大阪私学教育情報化研究会 ● 一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構 ● 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会
共催：	内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、消費者庁、十勝毎日新聞社
後援：	北海道、北海道教育委員会、北海道高等学校 PTA 連合会、北海道私立中学高等学校協会、北海道青少年有害情報対策実行委員会、一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会、全国高等学校情報教育研究会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会、特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構、独立行政法人情報処理推進機構、一般財団法人マルチメディア振興センター
協賛：	グーグル株式会社、株式会社サイバーエージェント、株式会社ディー・エヌ・エー、株式会社ラック、グリー株式会社、LINE 株式会社、インテグラル株式会社、エースチャイルド株式会社、一般社団法人情報教育研究所、Twitter Japan 株式会社、株式会社ベルパーク、株式会社メディア開発綜研
協力：	有限会社ワン・エックス、帯広コア専門学校、アルプスシステムインテグレーション株式会社、株式会社内田洋行、株式会社 NTT ドコモ、KDDI 株式会社、ソフトバンク株式会社、デジタルアーツ株式会社、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構、特定非営利活動法人浜松子どもとメディアリテラシー研究所、ストップイットジャパン株式会社
開催目的：	<p>高校生 ICT Conference は、2011 年度に「ICT プロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方&活用法～」として大阪でスタートしました。2012 年度は、東京開催を加え計 17 校 79 人の高校生が参加し、2013 年度は、東京・大阪に加え、北海道、奈良、大分を新たに加えて 5 拠点にて開催し、計 51 校 267 人の高校生が参加しました。2014 度も同 5 拠点にて開催し、計 44 校 221 人の高校生が参加しました。</p> <p>2015 年度は、石川、長野、神奈川、福岡を加えた 9 拠点にて開催し、計 78 校 310 人の高校生が参加しました。2017 年度は、より全国的な規模での展開に向けて、新たに北海道帯広、仙台、静岡、新潟、高知を加えた 14 拠点にて開催し、計 107 校 476 人の高校生が参加しました。</p> <p>高校生 ICT Conference の開催目的には、二つの側面があります。その一つは、教育的側面であり、初対面の人と話し合うという経験の中で、段階的に「考え、まとめる、聞く、話す、見せる、伝える」などの技術を修練することです。第二に社会的に注目を浴びている携帯電話やインターネットをテーマとすることで、大人になる準備段階として、携帯電話やインターネットを安心して安全に使うために、高校生として情報モラルについて自ら深く考え、実践することで、将来のより良いイ</p>

	<p>ンターネット利用環境の構築の一助とすることです。</p> <p>【本年開催テーマのコンセプト】</p> <p>IT やインターネットは、その発明の理由は別としても、民間利用においては、それらの技術を用いることで、人々の生活や事業をより効率よく、便利に営めることを目的としています。情報技術に限らず、多くの発明品は同様の背景を持ちながらも、便利さゆえに、安易な利用や悪事への利用などにより、本来の目的にはそぐわない結果を及ぼすこともあります。今年度の高校生 ICT Conference では、私たちの生活を更により良くするために、どのように ICT を利活用すれば良いか、という視点でテーマを設定しました。当然ながら、有意義な利活用とは表裏一体で、負の側面についても配慮が必要であり、より心豊かな生活を実現するために ICT の利活用における「光と影」について、次世代を担う高校生が自ら考える機会とすることを目的とします。</p> <p>※平成 21 年 4 月から施行された「青少年インターネット環境整備法」に基づき、青少年が安心・安全にインターネットを利用するための環境整備が始まった。民間の自主的・主体的取組が鋭意進められていると共に、行政に於いても施行状況の検討が進められている。一方、新学習指導要領が平成 23 年度の小学校を皮切りに、平成 24 年は中学校、平成 25 年度は高等学校で全面实施される。また、急速に普及を始めたスマートフォンや新しい ICT（情報通信技術）サービスにおいて、青少年が健全に ICT を利活用できるように育成するため、青少年への指導に加え、保護者や教職員への「情報モラル教育」の啓発活動が重要視されている。今年度は、スマートフォンの登場などにより急速に変化したインターネット利用環境下における諸問題について議論し、高校生が家庭や学校で取組むべき課題とともに、行政、事業者等への要望について本取組で提案し参考に資する。</p>
開催の概要：	<p>【各開催地での内容】 ※日程は、2. 地域開催の欄をご覧ください。</p> <p>(1) 挨拶 (2) 講演 (3) アイスブレイク (4) 熟議 (5) グループ発表 (6) 講評 (7) サミット参加者発表</p> <p>【東京サミット】</p> <p>(1) 挨拶 (2) アイスブレイク (3) 提言のための熟議 (4) 提言発表 (5) 講評 (6) 最終報告会参加者発表</p> <p>【最終報告会】</p> <p>(1) 各府省庁への提言発表（プレゼン） (2) 質疑応答・意見交換</p>
各開催地 募集人員等：	<p>募集参加生徒 30 名（各開催地により変動あり） 募集見学者各回 30 名（各開催地により変動あり）</p>
参加参観方法：	参加費・参観無料 [要事前登録]
高校生 ICT Conference2017	<p>【委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> 米田謙三（大阪私学教育情報化研究会 副会長）

実行委員会：	<p>【コアメンバー】</p> <ul style="list-style-type: none"> 石田幸枝（公益社団法人全国消費生活相談員協会 IT 研究会理事・消費者団体訴訟室長） 猪股 富美子（お茶の水女子大学 人間発達科学研究所） 植田 威（特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム理事） 小城 英子（聖心女子大学） 齋藤長行（青山学院大学 株式会社 KDDI 総合研究所） 他、関係者団体、事業者等 <p>【事務局】</p> <p>安心ネットづくり促進協議会 〒104-0031 東京都中央区京橋三丁目 14 番 6 号 斎藤ビル 2 階 TEL：03-3562-8850 FAX：03-3562-1180</p>
--------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2. 高校生 ICT Conference 2017 地域開催

高校生 ICT Conference 地域開催では参加した高校生がテーマに沿った議論を実施し、サミットへ行く代表者を選抜します。

	地域	開催日時	会場
地域開催	北海道（札幌）	2017年10月22日（日）11:00-17:00	札幌ユビキタス協創広場 U-cala
	北海道（帯広）	2017年10月15日（日）11:00-17:00	とちちプラザ
	宮城	2017年10月21日（土）10:00-17:00	東北工業大学 一番町ロビー
	石川	2017年9月23日（土）10:00-17:00	石川県教育会館
	長野	2017年9月30日（土）10:00-17:00	安曇野市明科公民館
	新潟	2017年8月17日（木）11:00-17:00	新潟コンピュータ専門学校
	東京	2017年10月7日（土）10:30-17:00	東京ユビキタス協創広場 CANVAS
	神奈川	2017年9月10日（日）10:00-17:00	学校法人岩崎学園
	静岡	2017年9月23日（土）10:00-17:00	静岡電子情報カレッジ
	三重	2017年9月30日（土）10:00-15:00	三重県庁
	大阪	2017年9月24日（日）10:00-17:00	大阪ユビキタス協創広場 CANVAS
	奈良	2017年10月1日（日）10:00-17:00	帝塚山大学 学園前キャンパス
	高知	2017年8月14日（月）9:30-16:30	高知県教育センター分館
	山口	2017年9月24日（日）10:00-17:00	サビエル高等学校
	福岡	2017年8月26日（土）11:30-17:00	都久志会館
	大分	2017年8月27日（日）10:00-16:00	アイネス、大分県消費生活・男女共同参画プラザ
鹿児島	2017年8月26日（土）10:00-17:00	鹿児島大学	
東京サミット	2017年11月3日（金）13:00-17:00	東京電機大学 千住キャンパス	
最終報告会	2017年12月中旬頃	（未定）	

東京サミットへは各地域で独自で実施した情報モラル・リテラシー啓発サミットからのオブザーバー参加者を招待予定。（サミット熟議のみ参加）※2016年度実績：沖縄、福井

3. 高校生 ICT Conference 2017 in 帯広 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など29名の参加者を得て、「高校生が考える心豊かな生活 ～ICT×(家族・学校・地域)～」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>開会挨拶 十勝毎日新聞社 取締役デジタルメディア局長 伊東 肇 様 高校生 ICT Conference の意義や目的とあわせて、本日の流れを紹介しました。</p> <p>来賓挨拶 総務省北海道総合通信局 情報通信部電気通信事業課長 宮腰 宗一 様 IOT/ICTに関する総務省の取組を紹介いただきました。</p> <p>第一部 事業者講演 「ICT利活用と心豊かな生活 ～未来を想像する3つのヒント～」 エースチャイルド株式会社 代表取締役 西谷 雅史 様 ICT利活用、心豊かな生活、未来のICTというキーワードを元に、5年後、10年後の未来を想像するにあたっての最新技術の紹介や、テーマを的確に捉え、じっくり突き詰めて議論し、エッセンスをのがさないという熟議にあたっての心構えなどをお話しいただきました。</p> <p>参加校 学校紹介 及び グループ分け 参加学校ごとに簡単な自己紹介を行いました。また、ファシリテーターの方々も自己紹介を行いました。自己紹介で少し緊張感も和らぎました。その後、3つにグループ分けしました。</p> <p>第二部：熟議 グループに分かれ、十勝毎日新聞社、ワンエックス、帯広コア専門学校の方々もファシリテーターとなり、熟議を開始しました。 高校生たちは、心豊かな生活のためにICTをどのように活用するのか、自分たちが考えていることをそれぞれ発表し、活発に意見を出し合いました。それぞれが考える心の豊かさや、ICTの活用方法等について付箋紙に記載していき、分類分けしながら付箋紙を模造紙に貼り付けていく中で、さらに意見を出し合いながら各グループでまとめて行きました。</p> <p>第三部：グループ発表 (各グループ 3分程度) 各グループでは、スクリーンに映したプレゼンテーション資料と模造紙を活用しながら発表を行いました。 その後、引率の先生と各校の生徒代表が集まり、11月3日の東京サミットに行く代表校を選ぶ投票を行いました。その結果、北海道釧路明輝高等学校が代表校に選ばれました。</p>
----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(グループ発表概要)

【A班】グループ名「梅干し」 テーマ「笑って暮らせる社会を目指して…」

- ・自分の心に余裕があるから共感することができて、笑顔になれる。
- ・個人の豊かさとは、他の人のことで豊かになれる、幸せを心から感じられること。
- ・それを地域に生かしていくために共有するというこで、イベント、ボランティア、挨拶をすることなどで地域創生を行っていく。
- ・総合すると人との関わりが大切だと言うことに気づいた。
- ・人との関わり、心の豊かさとは他人とコミュニケーションをとること、笑顔で暮らせること。
- ・そのために ICT を活用し情報の共有を図る。特に危険な情報への対応が必要。
- ・将来的に道路を歩いているときに360度が見渡せるようになれば、車にひかれる可能性も低くなる。
- ・警察等と情報共有することによって、事件・事故を防ぐことができる。
- ・身近なケースでは、学校でヘアアイロン使用禁止だが、そのときにカメラを設置して先生が来るのを早く察知できるとか。
- ・危険に対応することで安心・安全が確保されれば、心の豊かさにつながっていくと思うので、安心と安全が大事。

【B班】グループ名「いぬ」 テーマ「家族と ICT」

- ・心の豊かさのために大切なのは家族での ICT 活用。
- ・家族とつながり何かあれば相談できる。家族みんなで過ごす。そのために ICT を活用する。
- ・何かあったときに家族と簡単に連絡できれば、災害時や他のことにも使えるので、これが大切。
- ・そのためにスマホを利用する。
- ・例えば離れて暮らす祖父母たちと顔を見ながら会話することもできる。きれいな写真のやり取りもできる。
- ・だが、スマホを使えない人もいる。
- ・スマホを使えない人のために、スマホの使い方を教える教室を開く。家族内で教える。
- ・将来的には、思っただけでスマホの画面が変わったり、簡単に操作できるようになればいい。
- ・結論は、ICT を利用することで、家族とつながるきっかけとなる。

【C班】グループ名「I Can Try」 テーマ「さまざまな目線で日本を活性化！」

- ・ICT はスマホやドローン等あるが、ICT でできることといえば情報共有。
- ・Twitter や Instagram などの SNS を利用したり、インターネットで調べたりなど沢山のことができる。
- ・私たちが考えた案は、さまざまな目線で日本を活性化！

① 地元目線

	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の釧路市は、一般の方からは何もないイメージだが、釧路市民からすると世界三大夕日の一つとされるほど夕日がきれい、湿地の生態系を壊さないようにと制定されたラムサール条約で登録されている釧路湿原、という釧路の良いところがある。 ・その釧路市の良いところを SNS を通して発信し、釧路を活性化したい。 <p>② 子ども目線</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5歳の子どものと考えてみると、一般目線で見ると危険なところに行きたがる、やきもち焼きなど挙げられるが、子ども目線で見ると、好奇心旺盛で小さな穴があれば入りたくなる、親があまり関わってくれなくて、悲しい、寂しいという気持ちがある。 ・その子ども目線をドローンなどを使って撮影し、SNS などで広めると子ども目線に対する理解が深まると思う。 <p>③ 高齢者目線</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私の祖母は機械音痴で携帯の操作とか聞いてくる。お節介で電話をしてくるのに、かけ直したら電話に出ない。 ・私の祖母を活性化するには、Twitter や Instagram などの SNS の利用を説明して、祖母に限らず高齢者が SNS を利用することで、孫のことを電話しなくても分かるように共有できたら良いと思う。 ・結論として、さまざまな目線から見て物事を理解し共有することで、日本を活性化し、総合的に心を豊かにすることができるのではないかと考えた。 <p>その後、参加生徒により、11 月 3 日に開催される東京サミットに行く代表校の選定投票を行い、北海道釧路明輝高等学校が代表校に選出され、発表されました。</p> <p>講評：帯広コア専門学校 副校長 情報系学科主任 阿部 肇 様</p> <p>「限られた時間の中で他校の生徒と議論し、まとめ、発表するのは大変なことだったと思うが、真剣に議論をする姿を見て大変うれしく思いました。私が就職した当時はインターネットも無い時代。皆さんは生まれたときからパソコンもスマホも身近にあり、情報系に関しては非常にすばらしい環境にある。その中で、本日のテーマに沿って色々な考えが出され、非常に頼もしく思いました。今回のような経験はなかなかできることではないので、この経験を生かし、社会に出て I Can Try で行ってもらいたい。」と話されました。</p>
参加校	北海道帯広南商業高等学校、北海道釧路明輝高等学校、北海道士幌高等学校
日時	2017 年 10 月 15 日（日）11:00-17:00
場所	とかちプラザ 1 F ギャラリー 北海道帯広市西 4 条南 1 3 丁目 1
参加人数	熟議参加生徒 13 名 見学者 16 名（教員、教育関係者、その他） 合計 29 名
熟議グループ	熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。（敬称略）

<p>【A班】グループ名「梅干し」4名 北海道士幌高等学校 2年 女子 北海道帯広南商業高等学校 3年 女子 北海道帯広南商業高等学校 1年 女子 北海道釧路明輝高等学校 1年 女子 [ファシリテーター] ワンエックス 辻田 茂生</p> <p>【B班】グループ名「いぬ」5名 北海道士幌高等学校 2年 男子 北海道釧路明輝高等学校 1年 女子 北海道帯広南商業高等学校 1年 女子 北海道帯広南商業高等学校 1年 女子 北海道帯広南商業高等学校 3年 女子 [ファシリテーター] 帯広コア専門学校 小野 眞靖</p> <p>【C班】グループ名「I Can Try」4名 北海道帯広南商業高等学校 3年 男子 北海道帯広南商業高等学校 3年 女子 北海道士幌高等学校 2年 男子 北海道釧路明輝高等学校 1年 女子 [ファシリテーター] 十勝毎日新聞社 伊藤 肇</p>

4. 主担当

安心ネットづくり促進協議会	事務局
十勝毎日新聞社 有限会社ワン・エックス、帯広コア専門学校	司会、ファシリテーター、会場調整、什器備品手配、飲食手配、庶務他
各団体、事業者等	講演、ノベルティ、資料提供 他

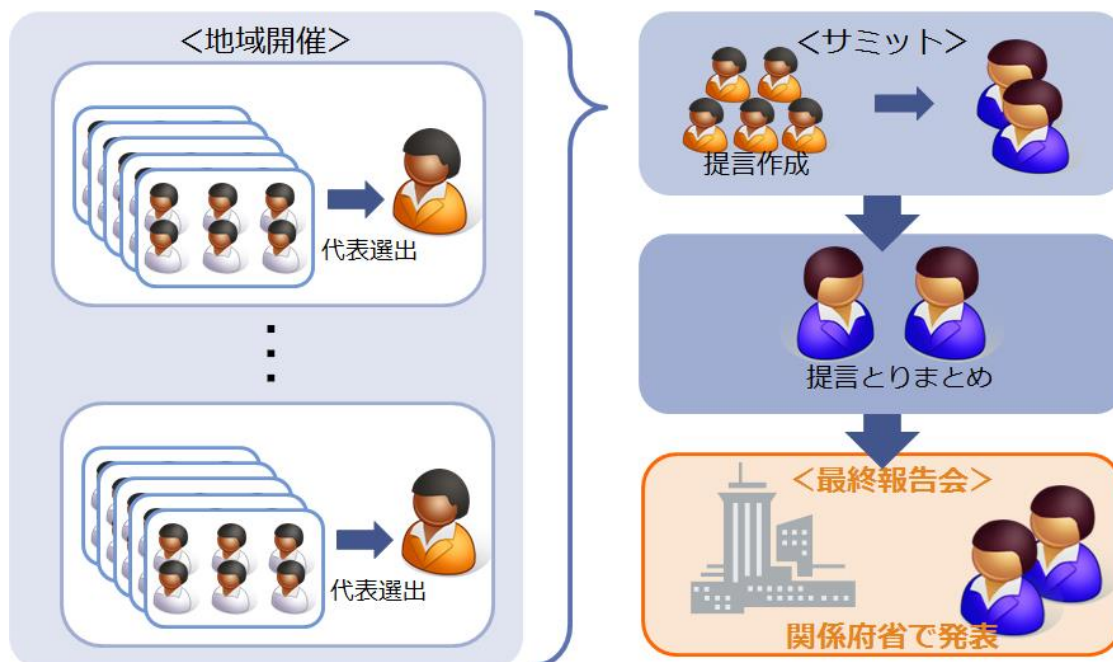
5. 高校生 ICT Conference 2017 サミット

高校生 ICT Conference 2017 サミットは、各地で開催された Conference の成果を高校生の代表として提言をまとめるための場です。その代表者の選考は以下の手順によります。

- 1) 参加が決まった場合、参加生徒を決めていただき、事前に登録をする
- 2) 熟議終了後、参加生徒の投票を基に代表を選出
- 3) 各地の代表者でサミット開催
- 4) サミット終了後、最終報告会で発表する代表を上記手順と同様に選出
- 5) 最終報告会代表者が、サミットの内容を提言にまとめ、最終報告会で提言発表を行う

6. 高校生 ICT Conference 最終報告会

高校生 ICT Conference 2017 サミットで検討された提言を、選出された代表者が報告用にとりまとめ、関係府省庁にて報告を行うとともに、関係府省担当者との意見交換によりコミュニケーションを踏む。



7. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応

- 1) グループ発表資料保存（又は模造紙など発表紙面の撮影）
- 2) Conference 終了後、発表内容、講評と併せて高校生 ICT Conference のサイトにアップデート
- 3) 高校生 ICT Conference 2017 サミット終了後、実行委員会にて取りまとめ
- 4) 高校生 ICT Conference 2017 サミット代表者による最終報告会用資料の作成
- 5) 最終報告会での発表

以 上